

# 総合的な学力の育成

～全国学力・学習状況調査からみえる本市の課題  
今後の取組の方向性について～

1. 全国学力・学習状況調査結果の推移
2. 全国学力・学習状況調査結果の分析
3. その他の課題について
4. 今後の方針性

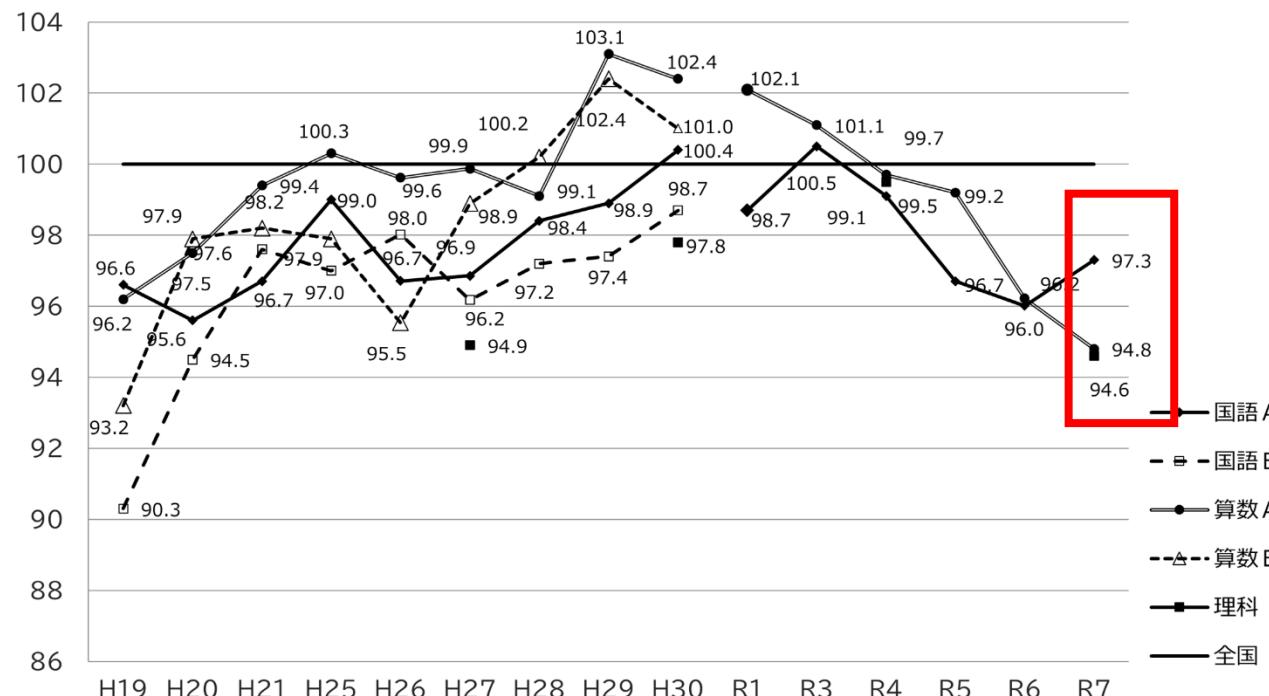
# 1. 全国学力・学習状況調査結果の推移

# 本市平均正答率と全国平均との比較

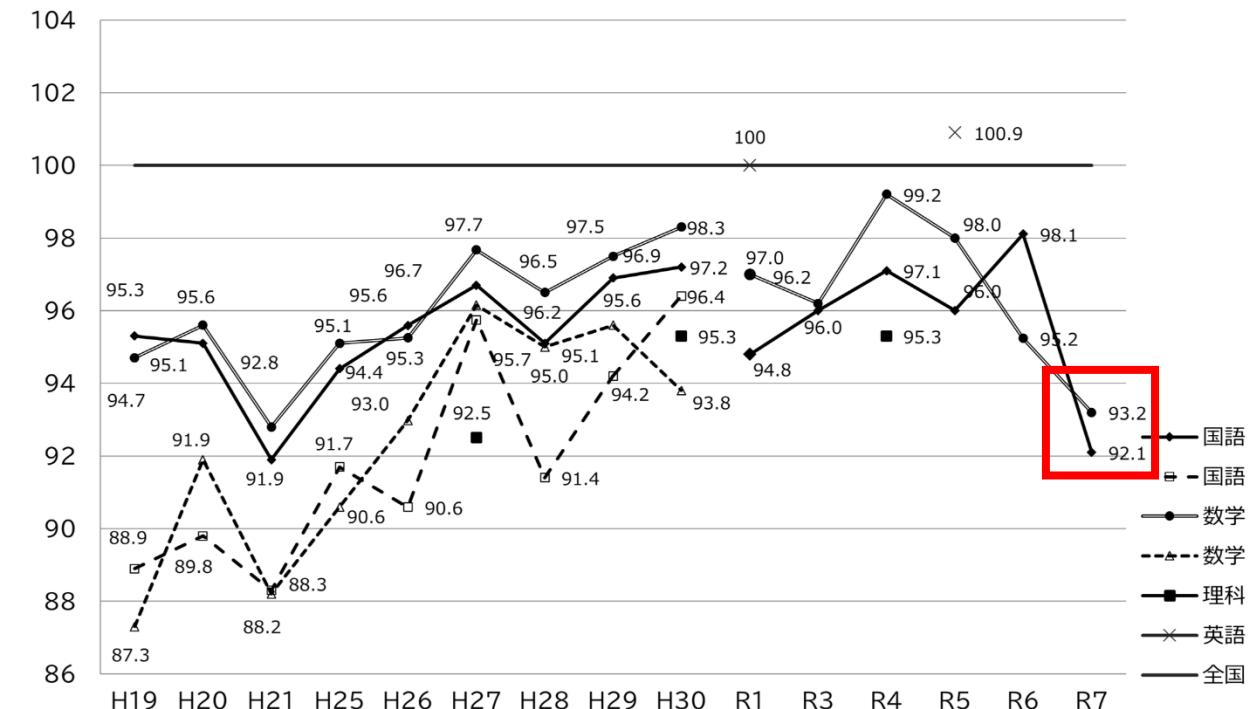
正答率 全国平均との比較 推移

※全国の児童生徒の平均正答率を基準（100）とした場合

各教科区分の年度別推移(小学校)

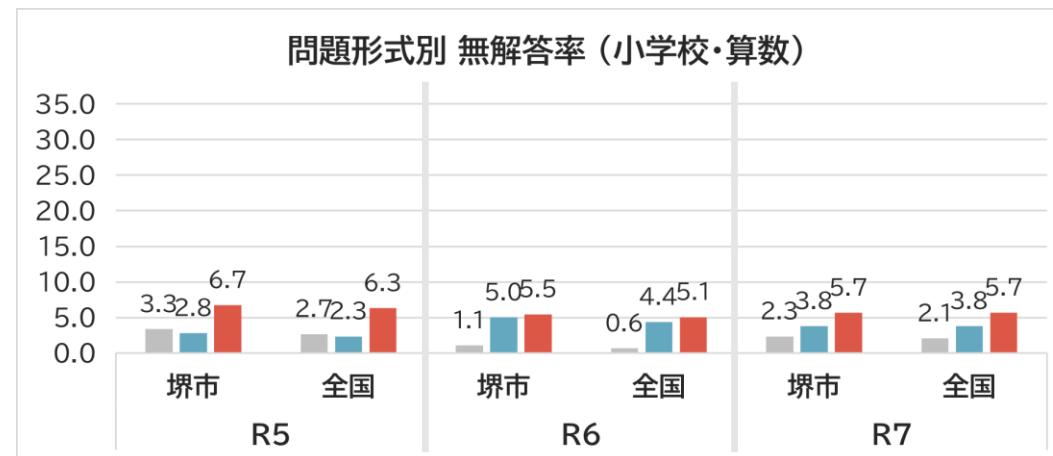
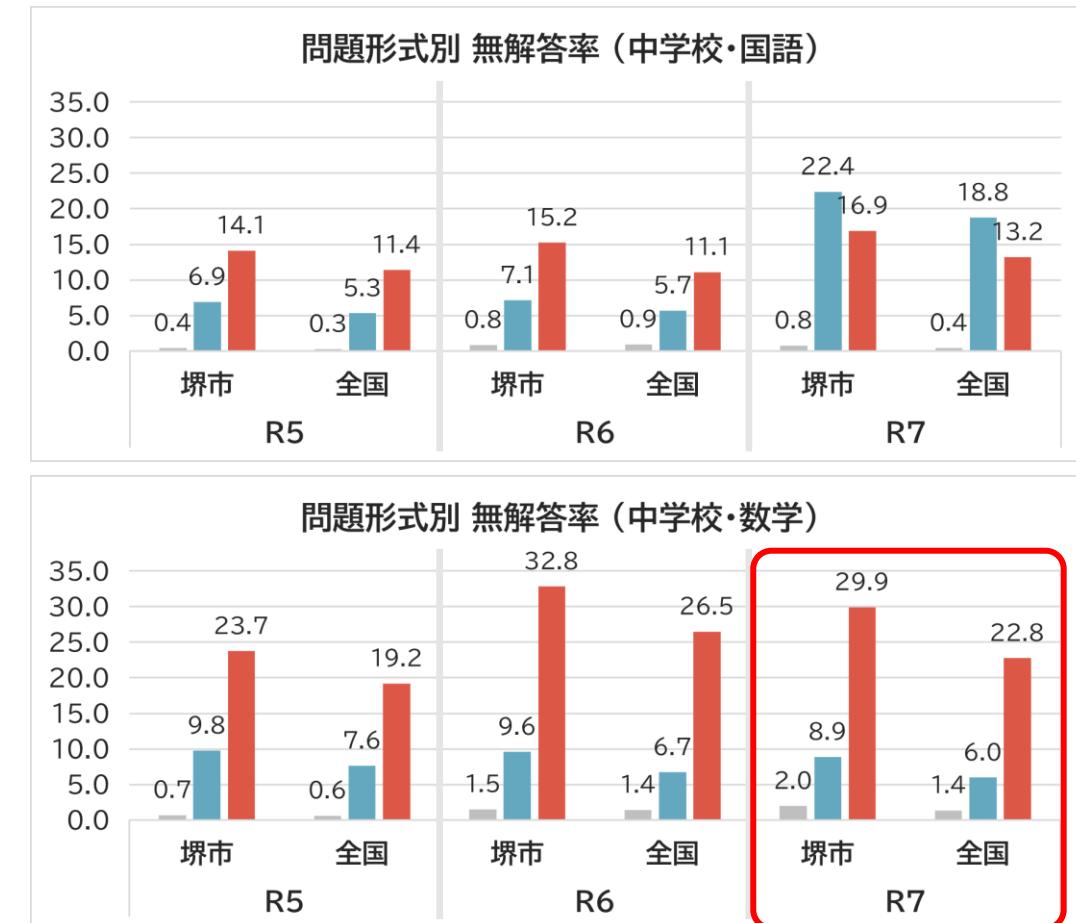
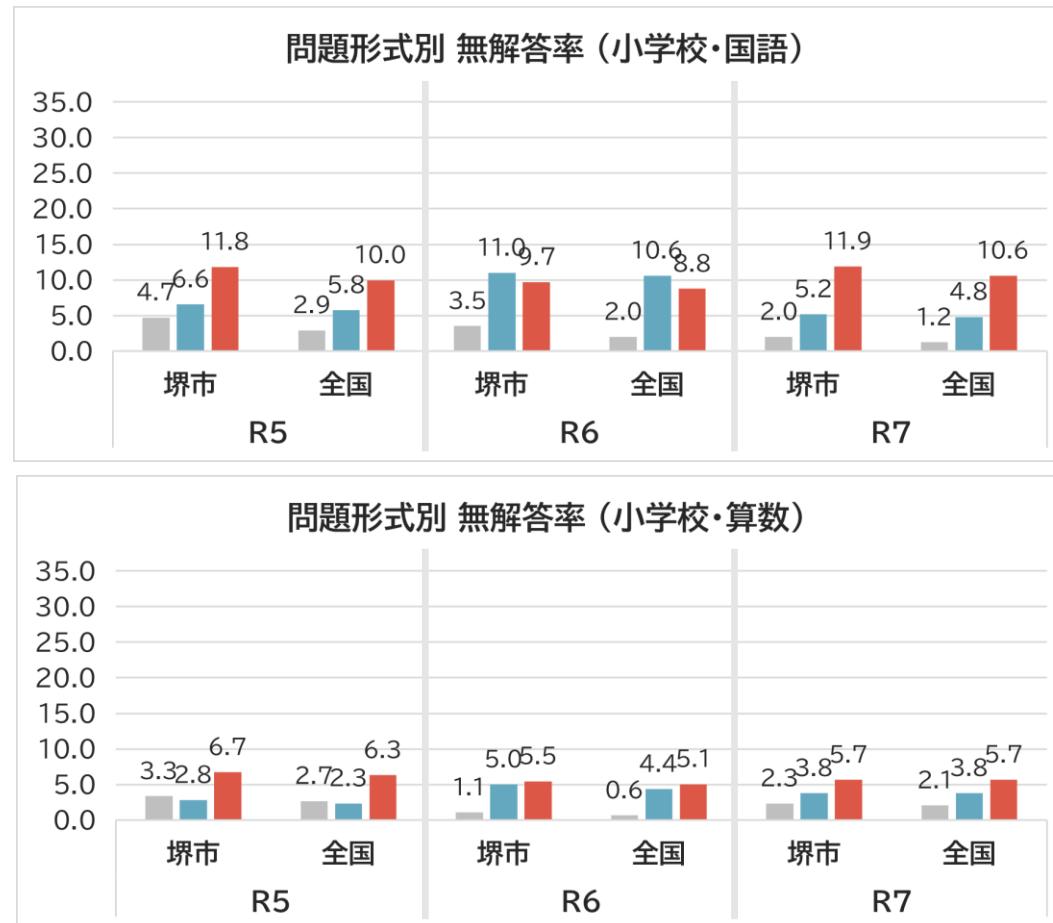


各教科区分の年度別推移(中学校)



令和7年度は、小学校国語において昨年度より改善傾向が見られたが、すべての教科において全国平均を下回っている。

# 無解答率の推移（解答方式別）



■選択式 ■短答式 ■記述式

中学校においては依然として全国との差があり、特に数学における記述式の無解答率の差が大きい。

## 2. 全国学力・学習状況調査結果の分析

# 教科調査問題の傾向



## ○国語 評価の観点別の対象問題数（過去3年）

分類	校種	区分	対象問題数（問）		
			R5	R6	R7
			国	国	国
評価の観点	小学校	知識・技能	7	6	4
		思考・判断・表現	7	8	10
	中学校	知識・技能	7	6	2
		思考・判断・表現	9	9	12

表 調査問題の枠組み

算数科の内容（領域）	数と計算	図形	測定	変化と関係	データの活用
主たる評価の観点	知識・技能		思考・判断・表現		
	日常生活の事象			数学の事象	
	日常生活の事象を数理的に捉え、問題を見いだすこと			数学の事象から問題を見いだすこと	
算数・数学の問題発見・解決の過程における局面	問題解決に向けて、問題を焦点化すること		焦点化した問題を数学的に解決し、数学的な表現を用いて筋道を立てて説明すること		
	解決過程や結果を振り返り、意味づけたり、活用したりすること			解決過程や結果を振り返り、概念を形成したり、統合的・発展的に考えたりすること	

国語では、「知識・技能」を観点とした問題数が減少し、「思考・判断・表現」を観点とした問題数が増加している。算数・数学では、問題発見・解決の過程を意識した問題が出題されている。

# 教科調査問題の傾向



## ○国語

校種	教科	問題の形式	ページ数	文字数（概算）	情報の数	正答率
小学校	国語	記述式	4ページ	2500	文章(3)・図	堺市 51.3 全国 56.3
中学校	国語	記述式	5ページ	1600	案内等 (4)・文章(2)	堺市 25.9 全国 31.0

## ○算数・数学

校種	教科	問題の形式	ページ数	文字数（概算）	情報の数	正答率
小学校	算数	記述式	2ページ	400	文章・意見・グラフ (2)	堺市 26.2 全国 31.0
中学校	数学	選択式	2ページ	600	文章・図・表・グラフ	堺市 65.8 全国 71.9

このことから、問題形式を問わず数ページにわたって複数の資料（図やグラフなど）があり、その情報を関連付けて考える問題が出題されている。

# 調査問題の解答状況

## ○「知識・技能」をシンプルに問う問題に関しては全国との差が小さい。

(小学校 算数)

正答率 78.1%  
(全国 79.3%)

(4)  $\frac{1}{2} + \frac{1}{3}$  を計算しましょう。

正答率 82.0%  
(全国 81.3%)

(3) わかなさんは、図1のⒶの角と図2のⒷの角の大きさを比べています。図2のⒷの角をつくっている2つの辺は、図1のⒶの角の2つの辺をそれぞれのばしたものです。

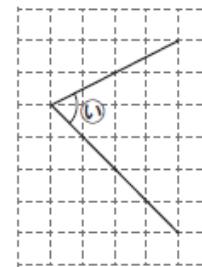
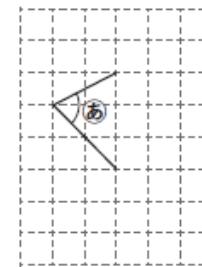


図1

図2

Ⓐの角とⒷの角の大きさについて、どのようなことがわかりますか。  
下の ア から エ までのなかから 1 つ選んで、その記号を書きましょう。

- ア Ⓐの角の大きさのほうが大きい。
- イ Ⓑの角の大きさのほうが大きい。
- ウ Ⓐの角とⒷの角の大きさは等しい。
- エ Ⓐの角とⒷの角の大きさがわからないので、このままでは比べることができない。

# 調査問題の解答状況

## ○「知識・技能」をシンプルに問う問題に関しては全国との差が小さい。

(中学校 数学)

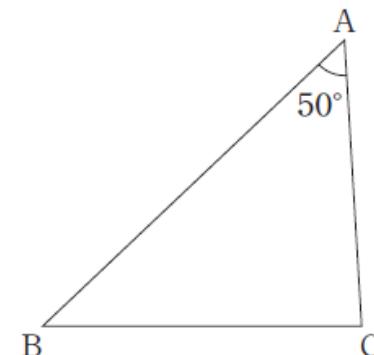
- 1 下の1から9までの数の中から素数をすべて選び、選んだ数のマーク欄を黒く塗りつぶしなさい。

1 2 3 4 5 6 7 8 9

正答率 38.4%  
(全国 31.8%)

- 2 オレンジの果汁が40%含まれている飲み物があります。この飲み物  $a$  mL にオレンジの果汁は何 mL 入っていますか。 $a$  を用いた式で表しなさい。

- 3 下の図の△ABCで、頂点Aにおける外角の大きさを求めなさい。



正答率 50.4%  
(全国 51.9%)

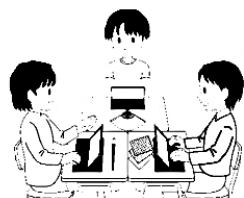
正答率 59.2%  
(全国 58.1%)

# 課題①【複数の資料を関連付けて考える問題】



○複数の資料を関連付けて考える問題の正答率が全国との差がある。

<p>【調べたこと】</p> <p>〈本を読んで分かったこと〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ブックカバー           <ul style="list-style-type: none"> <li>・何回か折るだけで、すぐに完成する。</li> <li>・本の大きさに合わせて包むことができる。</li> </ul> </li> <li>○ペットボトルカバー           <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペットボトルを包んで持ち運ぶことができる。</li> </ul> </li> </ul>	<p>〈使ってみて分かったこと〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ブックカバー           <ul style="list-style-type: none"> <li>・よがれがつくのを防ぐことができてよかった。</li> <li>・落としたときに、本がきずつかなかつた。</li> </ul> </li> <li>○ペットボトルカバー           <ul style="list-style-type: none"> <li>・水できが荷物につかなくてよかった。</li> <li>・温かい飲み物が冷めにくかった。</li> </ul> </li> </ul>
---	--



三 山田さんは、「ちらし」の書き表し方について友達に相談し、「ちらし」の――部をくわしく書いたほうがよいと考え、次の【調べたこと】を見直しました。あなたが山田さんなら、どのように書き直しますか。あの条件に合わせて書きましょう。

【ちらし】

# 手ぬぐい

手ぬぐいには、いろいろなよさがあります。  
そのよさとは、どのようなものでしょう。

## よさ1 もよう

さまざまなもようがあり、すきなもようを選ぶことができます。おくり物としてもぴったりです。

### 季節を感じるもよう

手ぬぐいには、植物や風景をもとにした  
もようがあります。季節に合わせて手ぬぐい  
を選ぶことができます。

しゅみやすきなもよ  
わせたもよ  
スポーツや音楽  
するもよ  
手ぬぐいもよ

- よさ2 使い方
- 手などをふくだけで  
することもできます。
- 身に着ける使い方
- イ あつい日に、水でぬ  
また、外で作業をする  
しゅうし、両手が空く  
物を包む使い方

このように、手ぬぐいには、タオル、フェイスタオルの他、  
みなさんもぜひ使ってみてください。

山田さんの学級では、伝統工芸品についてすい手ぬぐいのよさについてすいせんする文章を、などの問い合わせに答えましょう。

## 各資料から、目的に応じて 必要な情報を精査する問題

正答率 56.6%  
(全国 61.3%)

## 課題②【記述式解答の無解答率】

○記述式解答の無解答率が高い。特に中学校においては全国との差がある。

結菜さんの式の変形

$$\begin{aligned} & 3n + (3n + 3) \\ &= 3n + 3n + 3 \\ &= 6n + 3 \\ &= 3(2n + 1) \end{aligned}$$

太一さんの式の変形

$$\begin{aligned} & 3n + (3n + 3) \\ &= 3n + 3n + 3 \\ &= 6n + 3 \\ &= 2(3n + 1) + 1 \end{aligned}$$

式から意味を読み取り、  
考え方を表現する問題

無解答率 33.8%  
(全国 24.9%)

結菜さんの式の変形の  $3(2n + 1)$  から、「連続する 2 つの 3 の倍数の和は、3 の倍数である」ことがわかります。

太一さんの式の変形の  $2(3n + 1) + 1$  から、連続する 2 つの 3 の倍数の和は、どんな数であるといえますか。「      は、……である。」という形で書きなさい。

# 課題①, ②の考察

○「知識・技能」をシンプルに問う問題に関して平均正答率が全国平均を上回っている。一方、複数の資料を関連付けて考える問題や記述式解答の問題において、**各教科の特質的な見方や考え方**（※）を働かせて、既習内容と課題を結びつけることができない状況が見受けられる。

## ※各教科の特質的な見方や考え方とは

各教科特有の「物事を捉える視点」と「思考を進めていく方法」であり、各教科においてこの見方・考え方を働かせながら、資質・能力が育成される必要がある。

文部科学省が示す調査問題の趣旨からも、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして、必要な情報を見付ける力が求められることが示されている。

## 「見方・考え方」って？

算数



たとえば…

数や形に注目して、どうやって計算するかを考える

理科



たとえば…

自然の変化に注目して、なぜそうなるかを考える

社会



たとえば…

人の暮らしや歴史に注目して、どうつながっているかを考え

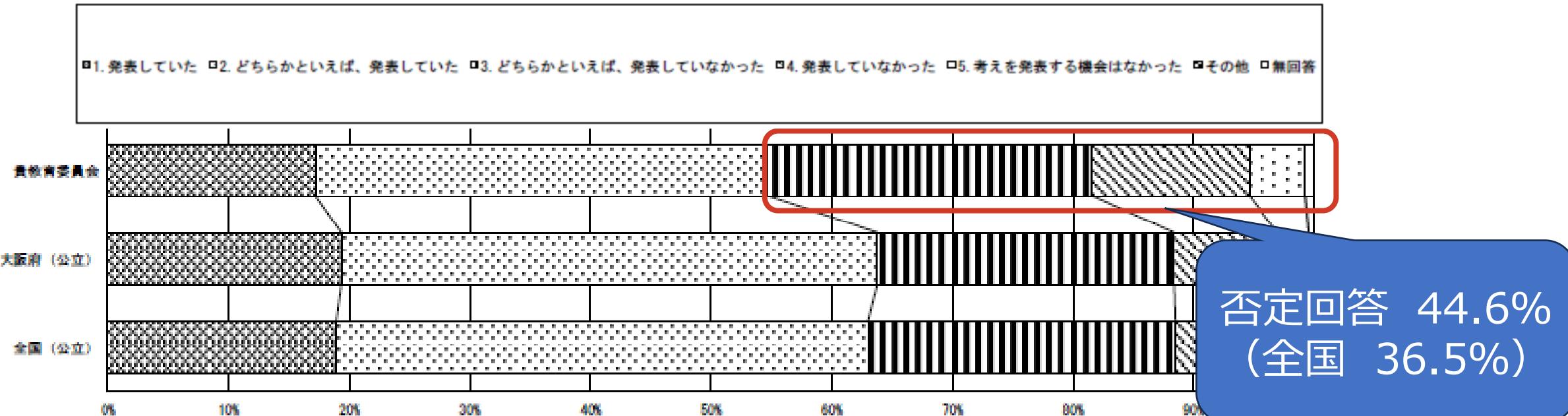
教科ごとの“考えるコツ”！

学んだことを汎用的な力として発揮できおらず、授業において、各教科の特質的な見方や考え方を働かせて学ぶことの意識化が十分ではないことが考えられることから、改善を図る必要がある。

# 課題①, ②の考察

○「自分の考えを発表する機会で、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立などを工夫して発表していたか」という生徒質問調査において、否定回答が多く、日々の活動の中で考えを表出する機会が十分に行われていない状況が考えられる。

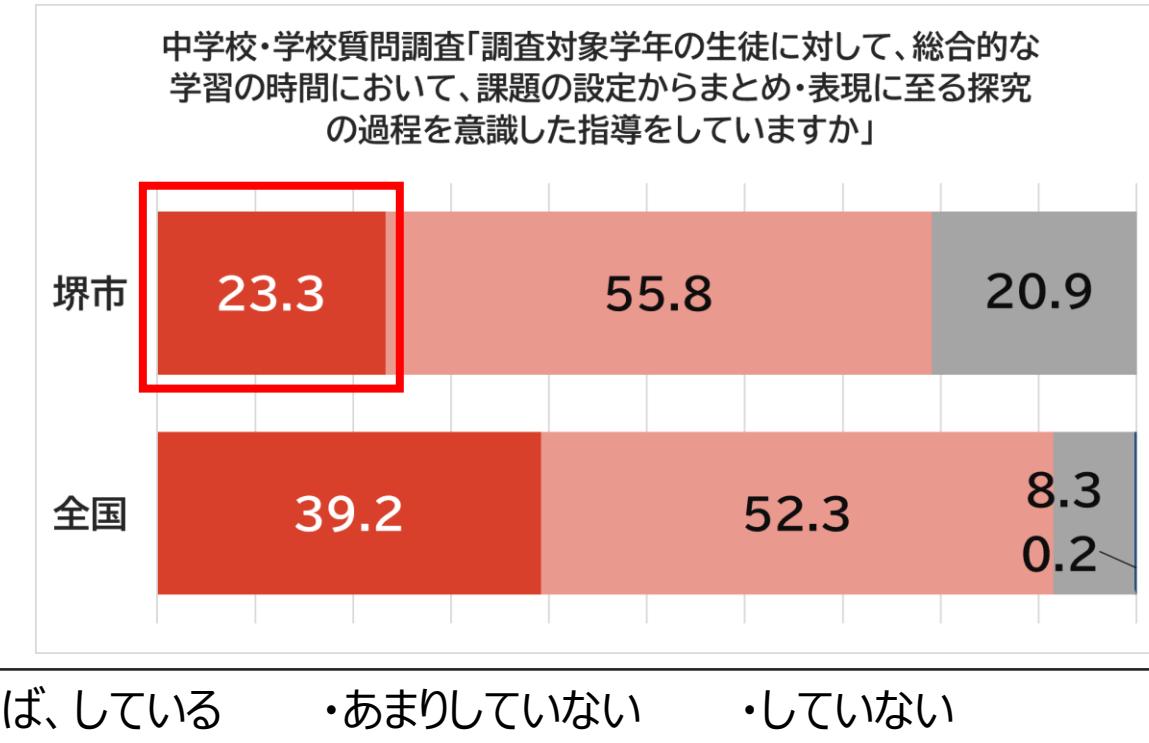
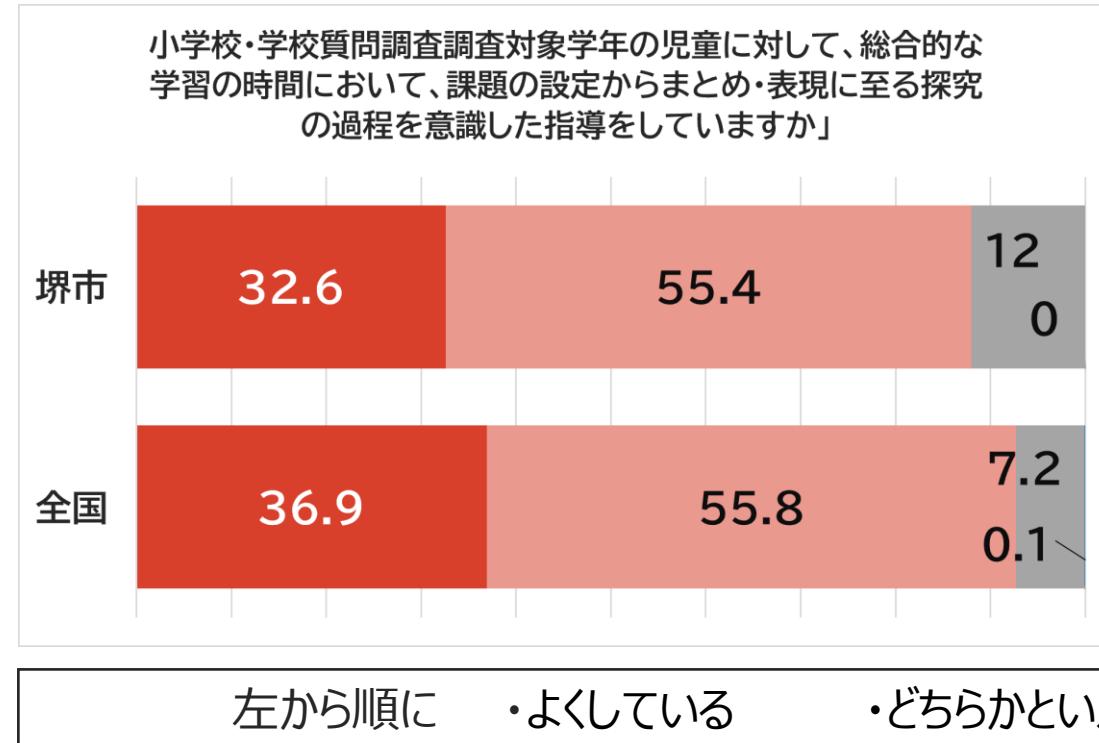
＜自分の考えを発表する機会で、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立などを工夫して発表していたか＞



中学校においては、**自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立などを工夫して、考えを表出する機会が少ない**ことが、複数の情報を関連付けて考えることや、自分の考えを記述することが難しいことにつながっている可能性があり、改善を図る必要がある。

# 課題①, ②の考察

- 総合的な学習の時間にかかる学校質問調査において、特に中学校では探究の過程を意識した指導が全国平均と比べて肯定的な回答の割合に差があり、探究の過程を意識した指導が十分に行われていない状況が考えられる。



自ら課題設定・整理分析し、自らの考え方等を表現する探究的な活動を通じて、**自らの考え方を表出す**る機会が少ないことも無解答率の高さにつながっている可能性があることから、改善を図る必要がある。<sup>11</sup>

## 課題③【学習内容の定着】とその考察



- 学習内容をよくわかっていると答えてているが、教科調査の正答率に反映されない。

(小学校)	質問項目	上位肯定的回答率	全国比	正答率全国比
	国語の授業の内容はよく分かりますか	37.8	104.4	97.3
	算数の授業の内容はよく分かりますか	45.1	107.1	94.8

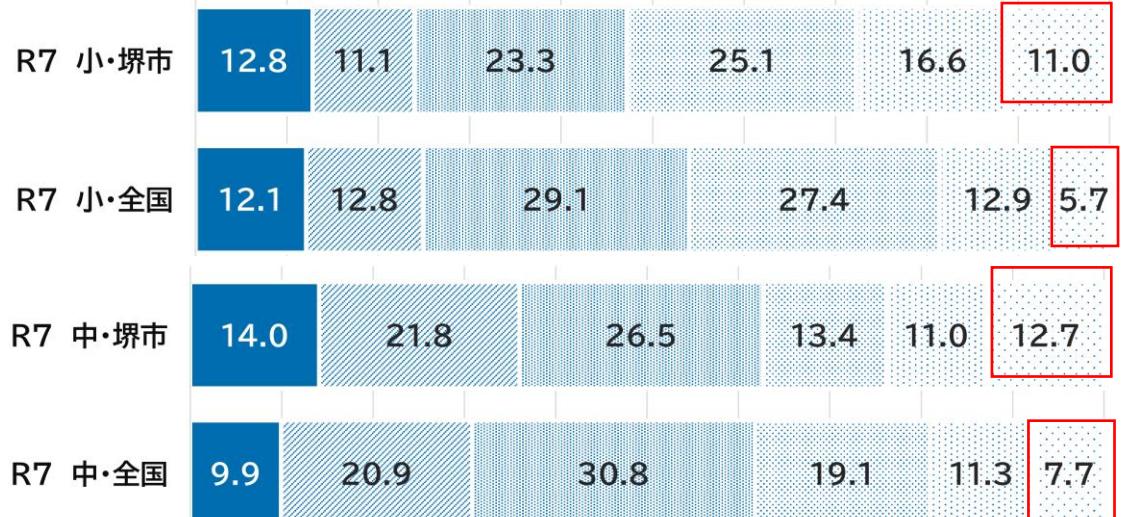
(中学校)	質問項目	上位肯定的回答率	全国比	正答率全国比
	国語の授業の内容はよく分かりますか	30.9	120.2	92.1
	数学の授業の内容はよく分かりますか	36.0	118.0	93.2

授業内での確認や学び直しの機会が少なく、内容の定着が不十分で、活用できる力に結びついていない状況が考えられることから、改善を図る必要がある。

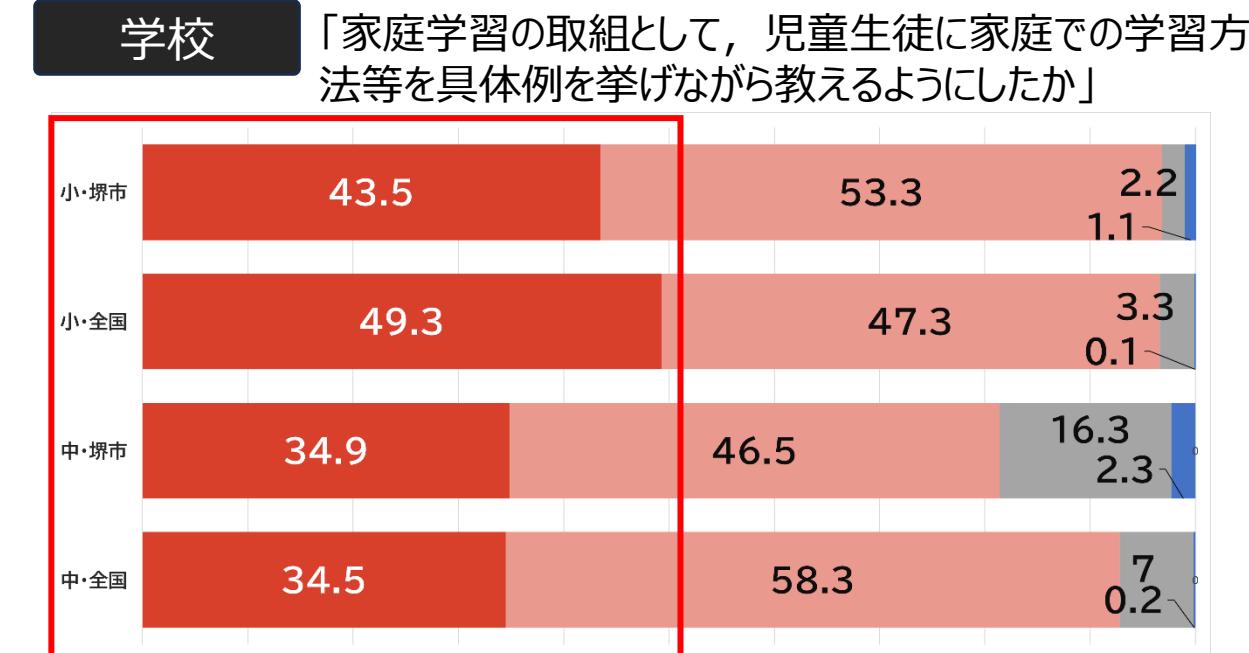
## 課題③【学習内容の定着】とその考察

○授業時間以外の学習時間に関する質問において、「全くしない」と回答した割合に全国と比べて差異がある。

【家庭学習】学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか



左から順に  
 ・3時間以上  
 ・2時間以上、3時間より少ない  
 ・1時間以上、2時間より少ない  
 ・30分以上、1時間より少ない  
 ・30分より少ない  
 ・全くしない



左から順に  
 ・よくしている  
 ・どちらかといえば、している  
 ・あまりしていない  
 ・していない

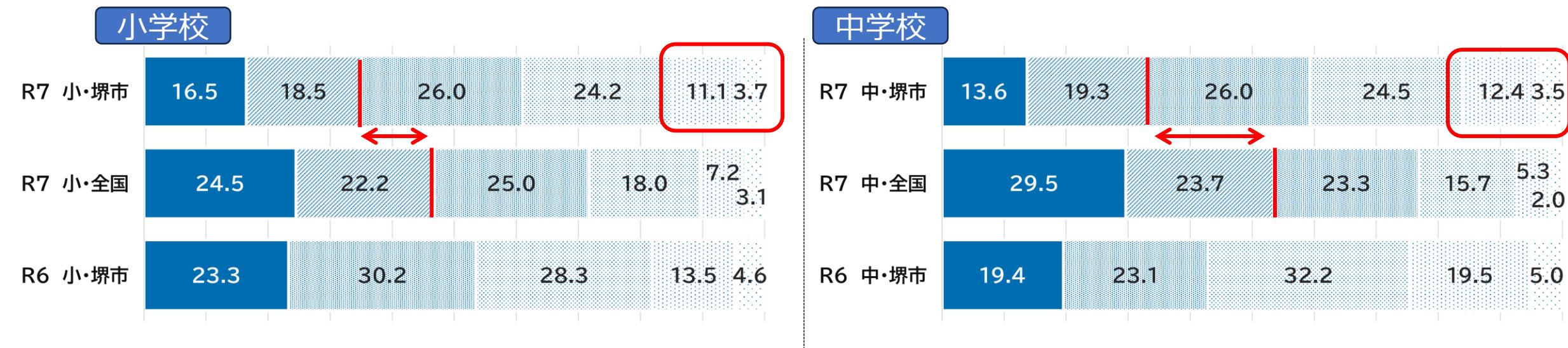
学校質問調査の「児童生徒に家庭での学習方法等を教える」に関する質問において、**具体例を示している割合は高いが、児童生徒の学習時間では「全くしない」の割合が高く、家庭学習の意義が十分に伝わっていない可能性が考えられ、改善を図る必要がある。**

### 3. その他の課題について

# その他課題 【ICT活用】

## ○ ICTの活用頻度について、全国と比べて差異

【ICTの利活用】5年生までに(中学校1、2年生のときに)受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



左から順に

ほぼ毎日 (一日の複数の授業) ほぼ毎日 (一日に一回くらいの授業) 週3回以上 週1回以上 月1回以上 月1回未満

※ R6は、左から順に ほぼ毎日 週3回以上 週1回以上 月1回以上 月1回未満

中学校において、「ほぼ毎日」が全国と比べて3分の2程度であり、「月1回以上」と「月1回未満」は全国に比べて高い。

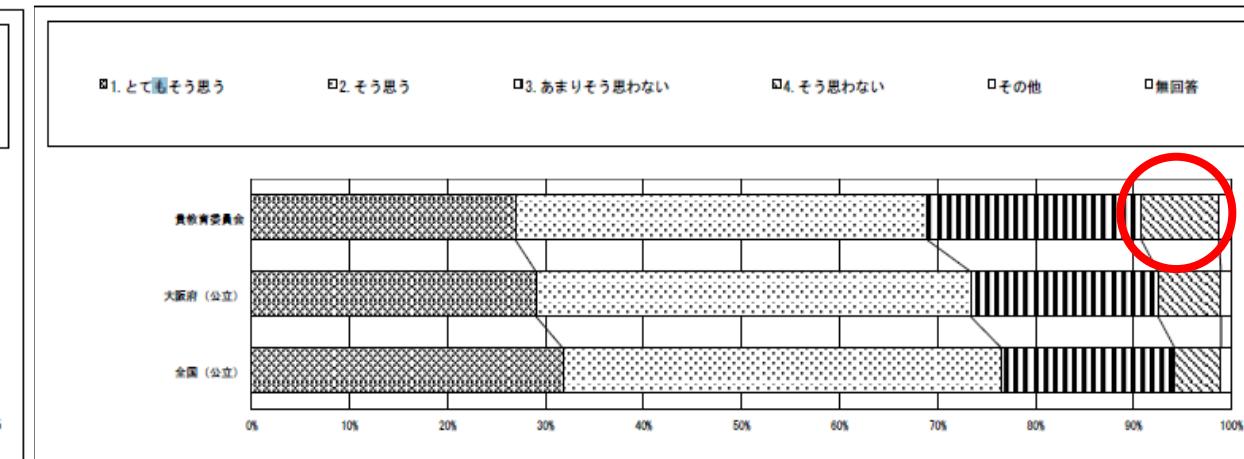
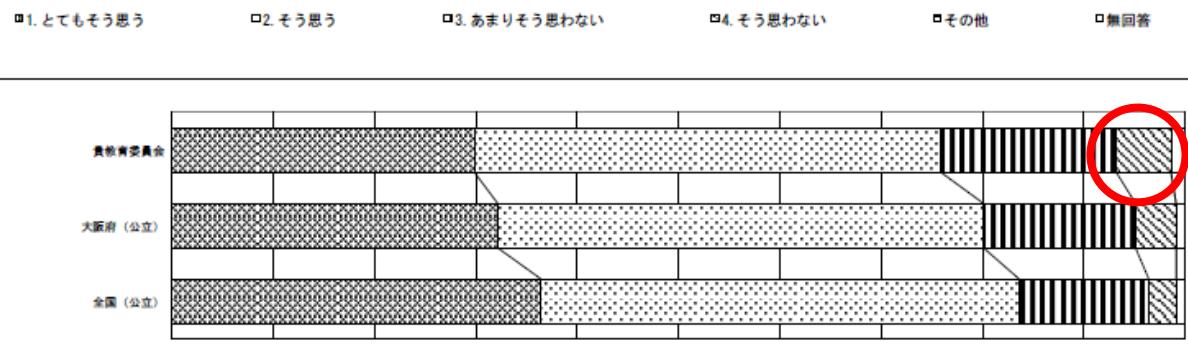
# その他課題【ICT活用】

- ICTを活用する自信に関する質問調査について、全国と比べて差異がある

中学校

<文章を作成することができると思うか>

<プレゼンテーション【発表スライド】を作成することができると思うか>



中学校では、「ICTを使って文章を作成できると思いますか」の質問に「そう思わない」が全国の2倍、また、「ICTを使って学校のプレゼンテーションを作成することができると思いますか」の質問に「そう思わない」が全国の1.6倍で、ICTの使用に自信がないことに差がある。

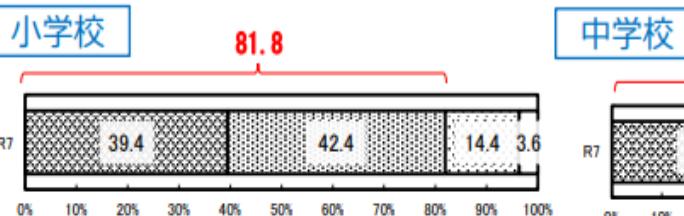
# その他課題 【ICT活用】

## ○ ICTを活用する自信に関する質問調査の相関

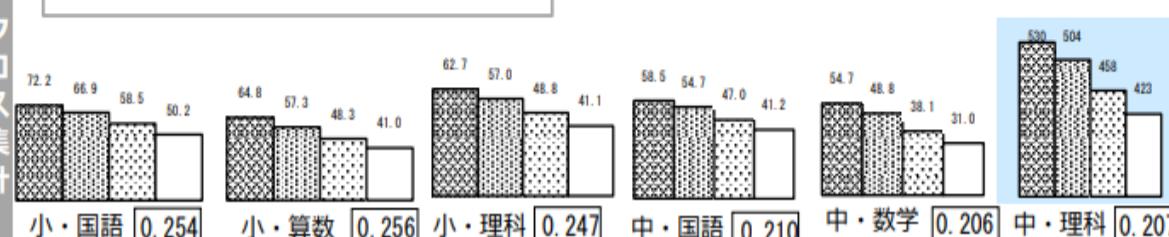
全国

とてもそう思う そう思う あまりそう思わない そう思わない

### (1) 文章を作成する（文字、コメントを書くなど）

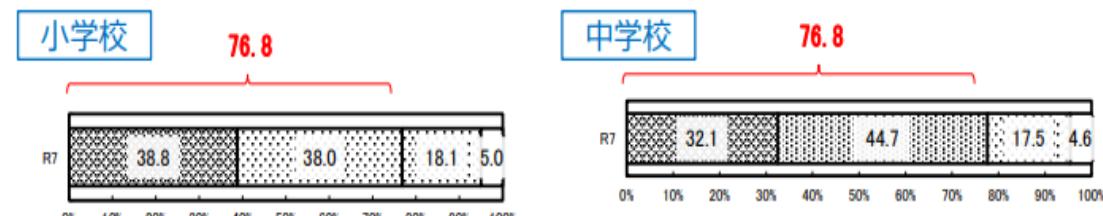


選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア

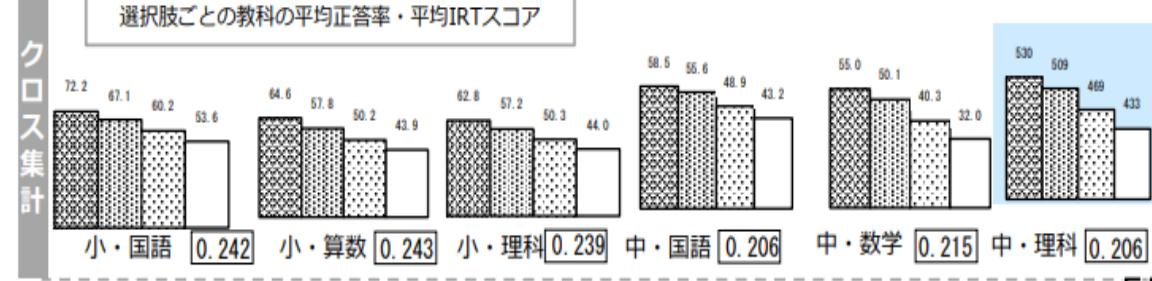


とてもそう思う そう思う あまりそう思わない そう思わない

### (4) 学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成する



選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア



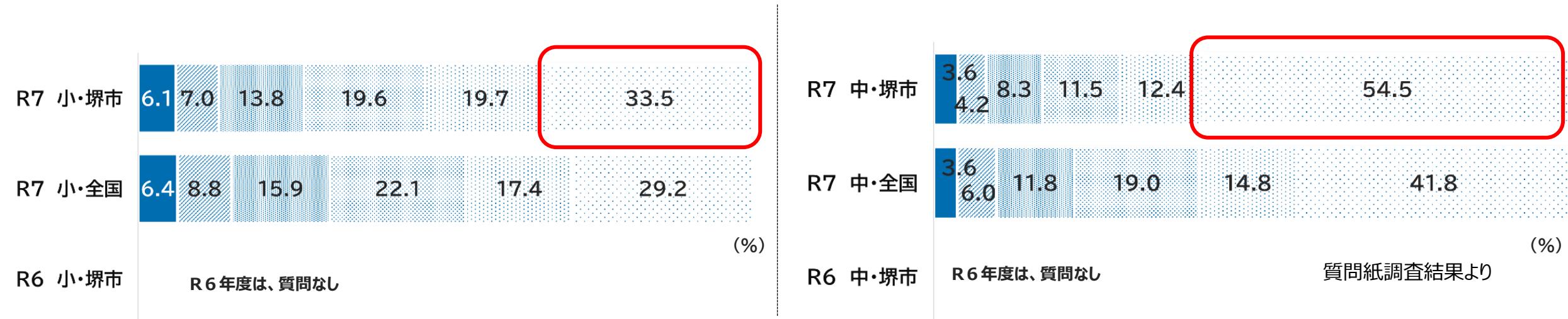
活用頻度と平均正答率に直接の相関はないものの、全国の調査分析では、**ICTを活用する自信と平均正答率に相関関係がある**とされており、中学校でのICTを活用して深い学びを生み出す授業改善を図る必要がある。

# その他課題 【読書活動】



- 授業時間以外の読書時間に関する質問について、全国と比べて差異がある。

【 読書習慣 】 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか



左から順に

2時間以上 1時間以上、2時間より少ない 30分以上、1時間より少ない 10分以上、30分より少ない 10分より少ない 全くしない

授業時間以外に読書を「全くしない」と解答した児童生徒の割合が、全国に比べて高い。

# その他の課題【読書活動】

- 全国の調査分析では「読書が好き」の肯定回答が高い児童生徒ほど、正答率が高い。

全国

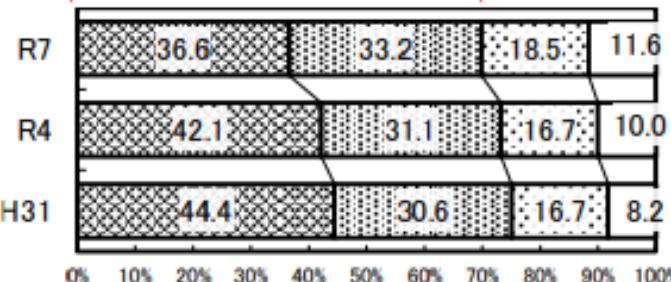
◆ 読書が好きな児童生徒の割合が減少傾向。

## 読書は好きですか

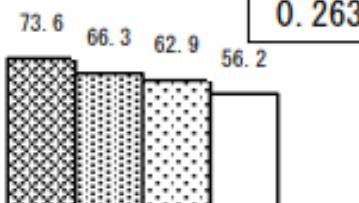
■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる  
 □ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない

小学校

69.8



小・国語

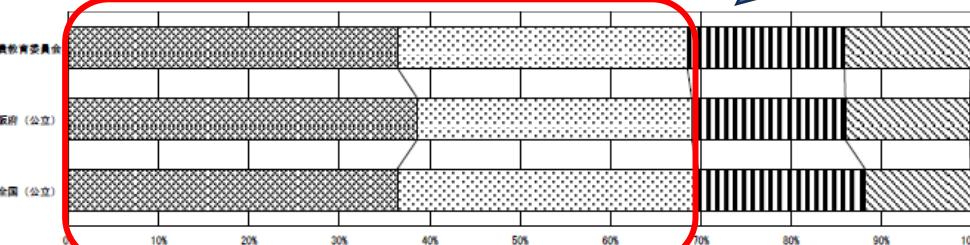


※算数、理科でも同様の傾向。  
 ※中学校でも同様の傾向。

堺市

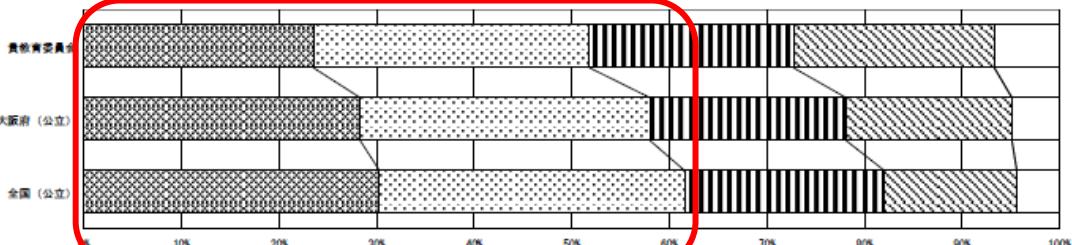
肯定回答 68.6% (全国 69.7%)

## 【小学校】<読書は好きですか>



肯定回答 51.8% (全国 61.6%)

## 【中学校】<読書は好きですか>



読書時間と平均正答率に直接の相関はないものの、全国平均では、読書好きほど教科調査の正答率が高い傾向があると示されている。本市の中学校においては肯定回答に大きな差があるため、改善を図る必要がある。

## 4. 今後の方向性

# 全国学調で改善が見られた事例



## < A小学校 >

- 教科調査の平均正答率において、全国比を上回る。
- 学力低位の割合において、前年より改善している。
- 学習内容の活用について問う項目の上位肯定の回答率において、全国比を上回る。
- 研修テーマに「自分の思いを表現し、対話できる子」を設定。
- 学力向上の分野では「学びのコンパスに基づく授業改善と自主学習力の育成」「ICT機器を使った表現力・思考力の育成」を掲げる。
- 自主学習の促進やICT教育の推進に取り組む。

## < B中学校 >

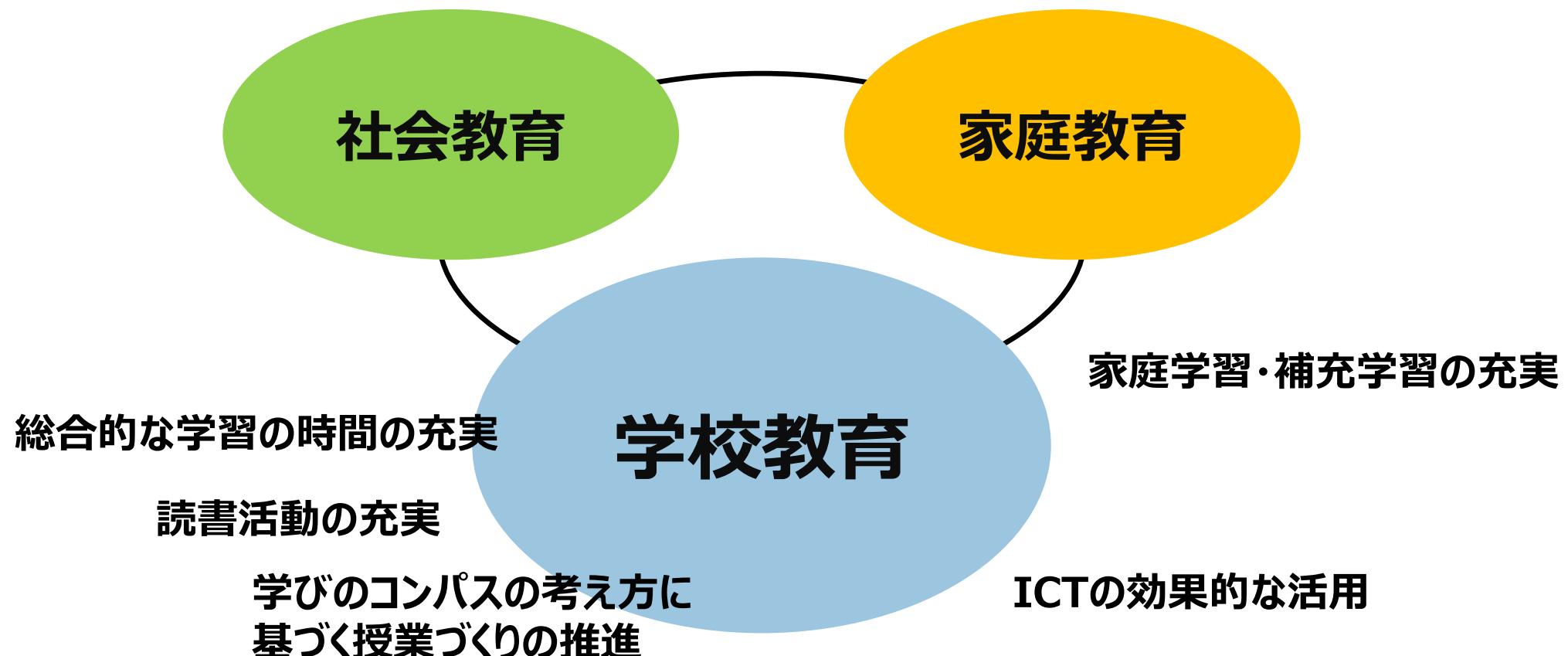
正答率の状況	質問調査の回答状況	• 教科調査の平均正答率において、全国比を上回る。 • 学力低位層の割合において、前年より改善している。
研修テーマと取組	• 学習内容の活用について問う項目の上位肯定の回答率において、全国比を上回る。	• 研修テーマに「ICT環境の活用による授業の構築と情報活用能力の育成・学びのコンパスを用いた授業の推進」を設定。 • 全教員の公開授業に取り組む。

## 全国学力・学習状況調査で成果が見られた学校の共通点

- 学校全体として『学びのコンパス』の考え方に基づく授業づくり等を取りあげ、授業改善に継続して取り組んでいる。
- 自己決定の場を多く設定することや集団づくりを意識した様々な取組が、学習意欲を高め、主体的な学びを生み出している。
- 思いや考えを自分の言葉で話しあったりする活動を多く取り入れ、児童生徒が互いに認め合う集団づくりに取り組んでいる。
- あらゆる場面でICTを効果的に活用する授業づくりをしている。
- 授業で学習したこと家庭学習で定着させる自主学習力の育成に取り組んでいる。

# 今後の方針

- 課題分析及び改善が見られた学校取組をふまえ、家庭や地域と連携し、総合的な学力の向上を図る。



# 今後の方針



## 「学びのコンパス」に基づく授業改善を加速

考察	取組
<ul style="list-style-type: none"><li>各教科の特質的な見方や考え方が働きかせていないのではないか。</li><li>自らの考えを表出する機会が少ないのでないか。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>教科特有の見方・考え方を教員と子どもが共有する授業事例の発信</li><li>学校を伴走支援する学びのインフルエンサーの拡充</li><li>学びのコンパスに基づく授業づくり研修の拡充</li><li>学力向上アドバイザー等の配置</li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>探究の過程を意識した指導が不十分ではないか。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>総合的な学習の時間の充実に向けたカリキュラム開発支援</li><li>「堺STEAMブック」を活用した教科横断的な学習の推進</li></ul>

## 補充学習・適用問題の実施

考察	取組
<ul style="list-style-type: none"><li>学習内容をよくわかっていると答えているが、教科調査の正答率に反映されておらず、学習内容が十分に定着していないのではないか。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>授業において学んだことを生かして取り組む適用問題の推進</li><li>児童生徒用パソコンを活用した学習支援の実施</li><li>全国学調の個人結果をもとに、児童生徒が学習支援コンテンツを活用して、自身の苦手な単元や領域の学び直しの機会の確保</li></ul>

# 今後の方針



## 家庭学習の充実

考察	取組
<ul style="list-style-type: none"><li>家庭学習の意義が十分に伝わっていない可能性があるのではないか。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>授業との接続を意識した家庭学習の手引きの作成</li><li>家庭学習習慣の重要性の啓発</li><li>IRTを活用した堺市学調の個人結果をもとに復習シートを活用するなど、自身の学力レベルに合った学習を推進</li></ul>

## ICTの効果的な活用を推進/読書活動の充実

考察	取組
<ul style="list-style-type: none"><li>ICTを活用する自信があるほど教科調査の正答率が高い傾向がある。肯定的回答に全国と差があり、改善を図る必要がある。</li><li>読書好きであるほど教科調査の正答率が高い傾向がある。肯定的回答に全国と差があり、改善を図る必要がある。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>ICTを活用した指導力向上に向けた教員研修の実施</li><li>教員を伴走支援するインフルエンサー（ICT活用推進研究員）の拡充</li><li>授業でのICT活用の好事例をネットワーク上で教員に発信・共有</li></ul> <ul style="list-style-type: none"><li>学校司書を中心とした学校図書館の環境整備の充実</li><li>授業における学校図書館の活用を推進（小学校1校で研究）し、教員と学校司書が連携した、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の実施と取組効果の他校への展開</li></ul>

# 今後の方針

各取組を推進するにあたっては、下記のような学校力が基盤となるため、教育データを活用しながら学校力向上に向けた支援を合わせて行う必要がある。

## 組織体制

組織的に学力向上に取り組む体制

(チーム力を高めるマネジメントを支援)

## 人材育成

授業力向上や課題解決に取り組むことができる教員の育成

(校内研修の活性化等に向けた支援)

## 研究機能

明確な課題に応じた主体的な研究

(実践研究に取り組む教職員を支援・奨励等)

